

新年を迎えて

しずない農業協同組合代表理事組合長 片岡 禹雄



ナ農政転換となっております。
しかしながら、今回のモデル対
策は、食料自給率向上の旗を掲げ
ながら、規模拡大で生産コストを
下げるほど所得を増やせる全国一
律の交付単価を設定し、構造改革

を促す仕組みとなっていることか
ら、今後、農業再建に向けては構
造改革は避けられない情勢となっ
ております。

これまで、JAグループ北海道
は、協同の精神を組織活動の根底
に据え、組合員の営農と生活を守
り、より良い地域社会を築くこと
を目的に事業活動を展開してまい
りましたが、農業とJAを取り巻
く環境が、大転換を迎える中に
あって、わが国の食料基地として、
食料自給率向上などでその役割を
十分発揮できる体制づくりが、今
後の北海道農業発展には欠かせま
せん。「協同の力で築く『あすの食
をささえる北海道農業』をスロー
ガンに掲げ、第二六回JA北海道
大会が昨年一月に開催されまし
た。

今後、大会決議事項の実践にあ
たっては、JA及び系統組織が各
々の実態を踏まえながら、着実な
実践を目指してまいりますので、
組合員各位には、より一層のご理
解とご協力をお願い申し上げます。
次に当JAにおける昨年の農畜
産物の取扱いについては、春先の
低温と長雨などの天候不順、経済
不況下での消費低迷等で厳しい生
産環境が続きましたが、各作目と
も各振興会を中心に安心・安全・
良品質確保を目指し取り組んだ結

果、昨年一月末取扱額で前年対
比一〇七%、計画対比九八・九%と
なりました。

水稲は、全国九八、北海道八九、
日高管内九五の作況指数となりま
したが、静内地区においては、収
穫量は前年を超えているものの低
温等により、規格外米の比率が上
昇しております。このため昨年は、
当地区のブランド米「万馬券」の
確保が、計画数量を下回り、持続
的な安定確保に一抹の不安を抱い
ております。

そ菜は、青果の八六%を占める
ミニトマト「太陽の瞳」について
は、作付面積も増加し、販売数量
・金額で前年比増となりましたが、
出荷最盛期での低温と道外産地と
の競合により、収量・価格とも計
画を下回りました。

酪農は、原油・飼料高騰による
乳価の値上げがありました。近
年の牧草収穫時期における天候不
順により、良質な粗飼料確保が図
れなかったことから、乳量ベース
で前年及び計画を下回りました。

黒毛和牛は、昨年は軽種馬経営
からの転換により、新規で二戸増
え、当地区での飼養戸数及び繁殖
頭数は三四戸、一〇七六頭と着実
に増加しております。

また、先進地との共存路線の中
で、相互の信頼関係も構築され、